

委員会だより

< 1月8日(日) 10名出席 >



- 行事計画：
 - ◆1月22日 信徒総会
 - ◆2月19日 聖公会クリストファー教会との合同祈禱会
- 行事報告：
 - ◆12月24日 聖夜ミサ・パーティ (美底さんが取った聖劇ビデオあり。別途お披露目)
 - ◆12月25日 降誕祭・茶話会
 - ◆1月1日 元旦ミサ 及び賀詞交歓会

■ 審議事項

- ☞ 1月22日の信徒大会について：
 - ◆ 大会プログラムの確認
 - ◆ 予算は教育養成費を約3倍に増やしたこと等が特徴
 - ◆ 中和田教会委員会運営規定の改定：委員任期、員数(行事、財務 各々2名に)、位置付け変更(総会⇒大会)、等々
- ☞ 次期委員選出：
 - 要理(井上)、布教(竹内)、財務(甲斐、山田)、広報(岩淵)、行事(山本、花坂)、典礼(竹内(兼務))、書記(小野)
- ☞ 井上さんより要理グループの運営体制紹介あり(12月5日役割分担を決めた)。
- ◆ 要理委員代理(美底)、会計(石崎)、書記(石井(洋))
- ◆ はっきり形にして周知する為、2月度広報に公示する。
- ☞ バザー委員は行事委員と別にしないのか? ⇒ バザーは行事委員の統括下でやる。

■ 予算・決算に関する議論

- ☞ 勘定科目編成を改め、わかりやすく(教区の分類に近く)
- ☞ 祭儀費、旅費交通費など2006年度予算では減少
- ☞ 消耗品費：聖堂の照明器具を改めることが必要なので10万円程予算計上してある。
- ☞ 建設会計にはマリア会から323,100円が繰り込まれる。
- ☞ ミサ献金の予算(収入)は、最近減少気味の傾向を踏まえて実績より減らしてある。
- ☞ 第5地区分担金：布教強化費の科目から分担金・負担金の科目に移った。
- ☞ 全体的に聖堂の音響見直していく。
- ☞ 他にもいろいろ要望あり。
- ☞ 会計監査は、1月14日実施。監査人は、上野さん。

■ 堅信を今年どうするのか?

- ☞ 今年は6月11日に藤沢教会で予定されているので、受堅希望の方は藤沢教会でお願いしたい。来年司教様に中和田教会に来て頂くようお願いして見ます。(鈴木神父)

委員会後記 委員長 下村 毅

「委員会だより」にあります、「中和田教会委員会運営規定の改定」については、従来の「中和田カトリック教会運営規定」を05年11月・12月・06年1月委員会にて審議し、「中和田カトリック教会委員会運営規定」に改定しました。内容について信徒大会にて皆様にご説明することになりました。ここでは、見直した内容を具体的に紹介致します。

1. なぜ、教会運営規定を委員会運営規定に見直すのか?

従来の教会運営規定は、組織として「信徒総会」「委員会」「ヨゼフ会」「マリア会」で構成されていました。今回、マリア会の解散。そしてヨゼフ会は親睦会と形を変えて来ているため、従来のような運営ができなくなり、見直しが必要となりました。

2. 教区の指導との関係から見直したものの:

(☆教区指導・★中和田の現状と今回の改訂等)

(1) 小教区(各教会)運営

☆教会運営は、主任司祭の権限で行われ、信徒は主任司祭を補佐することが原則です。(小教区の管理・運営奉仕者養成研修会 05/4～6 林事務局長)

★現在の中和田教会運営規定は、2005年信徒総会の総意で「主任司祭を委員会が補佐することとしています。そして各委員の行動は委員を中心にグループを形成して、出来るだけ多くの信徒の奉仕で行われるよう努めています。」の内容を進めており、教区指導と一致しているため改訂はしません。

(2) 信徒大会

☆上記のように教会の運営は主任司祭の権限で行われます。従って、教会運営は総会で審議して決めるものでなく、信徒の意見を伺う「大会」を開催することが望ましい。(小教区の管理・運営奉仕者養成研修会 05/4～6 林事務局長)

★「信徒大会」と改め、議長を教会委員長としました。

(3) 財務委員の複数化

☆「財務委員」は複数が望まれる。(1988年11月浜尾司教より教区指導)

★教区指導ならびに、財務グループの充実を図るため2名構成としました。現在教区への財務報告はきめ細かなコンピュータ処理が望まれ、仕事量も多岐に亘ってきています。

3. 中和田教会信徒からの要望で見直したものの:

(1) 委員の任期:

現在規定は、任期は3年で毎年三分の一を改選する、としていますが、昨年総会での「3年は長すぎる」とのご意見、また立候補者を募っても「委員のなり手(応募者)が居ない」こと等苦慮される面が多くあります。

今の中和田の理想「皆で奉仕する」ことを考えれば、構成されているグループを充実させるためにも、グループ内から順次交代に委員会に参画していただくことが、望まれています。委員の交代は、時代の変化にあった新しいやり方に進むことができると思われ、任期を2年としましたが、他教会では一年交代の所もあります。

(2) 行事委員の複数化

中和田教会の行事は、バザーを始め・復活祭・降誕祭後のパーティー等の実施にあたっては、多くの要望が寄せられ多忙を極めております。これらの要望を充実するためと、信徒間の連絡の円滑化等から、行事委員を複数化することとしました。構成は、奉仕の内容が異なることもありまますので、男・女1名ずつを望んでおります。

(3) 規定の見直し:

従来規定(IX付則)は、「3年後に見直す」ことになっています。2005年総会でも「長過ぎる」との意見もあったことと、最近の教会運営は変化が激しいため、毎年見直す規定にしました。

ヨゼフ会だより

< 1月15日(日) 11名出席 >



総会を実施、昨年度運営報告、本年度計画につき報告・討議

■ 連絡/報告事項

■ ヨゼフ会運営指針:

- ☞ 基本指針として、本年度から『親睦団体』として運営していくを確認。
- ☞ 運営規定の改定案については、次回例会まで会員各位に検討をお願い。
- ☞ 例会(第3日曜)ではテーマを絞り意見交流、懇話を行う。
- ☞ その他、以下の活動を行っていく。
 - ◆ 「広報なかわだ」投稿 ◆ サロンの運営
 - ◆ 教会運営、行事の支援 ◆ 黙想会、ハイキングなど

■ 2005年度ヨゼフ会会計報告 --- 会計監査をお願いした鶴田さんより問題無いことを確認した旨報告あり。

■ その他

- ☞ ヨゼフ会当番表の確認
- ☞ ヨゼフ会連絡網は、本年度から教会全体連絡網に統合
- ☞ 毎土曜日の教会掃除への協力要請あり(従来旧マリア会担当)
- ※ 総会終了後、渡邊神父様および多くの婦人信徒のご参加も得て総勢30名で新年会が開催され、楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございました

広報 なかわだ 第320号

2月の予定

典礼委員会	2月 5日
委員会	2月 12日
ヨゼフ会	2月 19日
行事委員会	2月 19日



2006年 2月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成18年2月5日



神奈川に来ての冬を迎えながら思うこと



助任司祭 渡邊 裕成

八ヶ岳の方から神奈川の方に移っての今年の冬は、私にとってだいぶ過ごしやすい冬となっています。ふと、去年は、新年早々に、赤道直下の国、アフリカのウガンダに行ってきたことを思い出します。去年の冬の厳しさが一段と身にこたえたのは、そのためもあったのでしょうか。ウガンダへは、そこで横浜教区の同僚の司祭、本柳神父が宣教司牧にあたっており、彼を訪ねて来ました。そこに住む人々の生活は厳しいものでしたが、それは私の目には、産みの苦しみのときを生きているもののように映りました。私たちの国はそれに対し、ひとつの時代の終わりのとき、厳しい冬の時代を迎えようとしているように思えます。

八ヶ岳の方にいたとき、私は、現代社会での生活に心身をすり減らし、八ヶ岳山麓に来て療養生活をしている幾人かの方々に会いました。その中のひとりの方が、いまも林の中の一軒家でひっそりと暮らしているのですが、こんなことを口にしていただのを思い出します。

「窓から外を眺めていて、秋に木々が葉を落としていく様に心打たれます。木々は、春になったら芽吹く新芽の準備をすっかり整えたちょうどそのとき、葉を落とします。ひゅっと吹く風に乗って葉が舞う様子は、まるで荘厳な儀式がなされているようです。大自然は来るべき春の準備をしっかりと整えてから、厳しい冬を迎えます。人間だけだ、遊び惚けているのは。」

その方の話を聞いて私は、幾年か前、冬の真っ只中に山の中を散歩していたとき、目の前のすっかり裸になった木肌のぶつぶつしたものが目にとまり、それをひとつ摘まんだとき、中から小さく柔らかい緑の葉がでてきたときの感動が甦りました。こんな冬の真っ只中に既に春になったら芽生える準備はできているのだと。

その方の語るのを、私は今もときどき味わっています。厳しい冬の時代を迎えようとするこのとき、大きな御摂理の中では、きっと春の訪れの準備はなされたことと信じます。そして私たちの、いま生きるこのことの実りがなかなか目に見えないこの時代にあって、いまここでのお奉げは、春の萌芽のためのものと、いまこのときを奉げていく決意を新たにいたします。しかしまた同時に「人間だけだ、遊び惚けているのは」との叫びが、心に突き刺さります。その通りだと思います。



ミサ当番表 (06年2月)

月/日	先唱者	第一朗読者	第二朗読者	詩編	共同祈願	奉納	侍者	準備係	オルガン
2/5	石井(大)	石井(ま)	美底(か)	石原(ち)	石原(未)	森脇(ま)・森脇(る)	石井(拓)・石井(つた)	下村・松下	美底(さ)
2/12	福島	小野	上野(明)	岩淵	小野	小野	石原(知)・美底(沙)	中谷・青柳	森田
2/19	清水	石井(悠)	丸田	岩崎	石井(悠)	石井(悠)	森脇(留)・石原(未)	井上・大原	岩淵
2/26	小野寺	鶴田	阿部(寿)	小谷	岩崎	鶴田	石崎・石井(大)	大宮・松尾(し)	美底

偶然と必然の狭間で

石井 三雄

「もししたらK間さん？」私が訊ねた隣席の女性はしばらく私の顔を見ていたが、やがて大きな声を上げた「エッ、エー！ 石井さん？ 何でここにー」。相手の家族と家内は経緯が判らずあつけにとられている。

彼女とはつい最近小学校のクラス会で隣り合わせに座り、昔話に花を咲かせたばかりだった。私は毎年出席しているが、彼女は十数年ぶりだといっていた。お互いに家族を紹介し合いその席は和んだ雰囲気の中となった。

この出会いは、インターネットで「ツアー募集」の案内を見つけ、家内の都合の良い日で申し込んだ曜日だった。このツアーは下田のPホテルに3泊4日という企画で2連泊は完全にフリーという内容だった。最近趣味の絵も描いていない、家内も読書と手編みをしたいとのことで直ぐにインターネットで申し込んだ。ここ一年近くはNPO関連のプロジェクトの立ち上げに関わりあまり自由な時間が取れなかったが、やっと見通しがついたのでツアー参加だった。この企画は旅行会社が10月から3月までの半年の間毎週募集しており開催回数も月に4～5回あり延べにした催行回数もかなりになると思うのだが、この“偶然”はいかなるものか。

翌朝、この時間では3～4人の湯浴み客しかいない大浴槽に浸かり、駿河湾から昇る日の出を満喫した。バイキング形式での朝食の後、早速このツアーの目的である「拙い絵」の制作に執りかかった。いつもそうだが、描きながら鼻歌が漫然とした思考の中にある。人はこの世に誕生したとき、偶然か必然かで意見の分かれるところだが、そこに個人の意思が存在しているのだろうか。しかし断言できることは人生終焉の時には意思が存在し、その意思が、安らかな死を望むのは永久不変で万人の願いだろう。

これも偶然か必然かは自身で判断しかねることだが、数年前に市から委嘱されて、保健関係のボランティアを引き受けた。保健とは文字通り“健康を保つ”の意味で、日ごろは元気（ピンピン）で、死ぬときはあっさり（コロリ）と逝くために残りの生涯（ピンコロ人生）をいかに元気（健康）で過ごすか、日頃の生活を通して「予防の大切さ」を機会があるごとに訴えている。その一つとして、地域の高齢者を対象にした「健康づくり」という行政と協働の事業活動を行っているが、これには5年間で延べ3,000人以上の方々に参加している。

また保健と共に。犯罪には防犯、災害には防災という熟語があるが、この言葉の意図する「予防することの大切さ」を実証する為に一声運動、防犯パトロールなど地域のボランティアにも努めて参加するようにしている。自身の生活を通して、祈りは必須だが行動することも不可避だと思っている。偶然から必然へとという過程がある

とすれば、健康でいる限りこのボランティアを続けていこうと考えている。

筆を休めてバルコニーに出ると、海からの風はかなり冷たい。ここからは大島、利島、新島そして式根島までははっきり眺望できる。毎年夏にはこの新島、式根島行のクルージングがヨット仲間での恒例となっているが、このパノラマを前にして52歳で逝った親しいヨット・クルーのことを思い出した。

彼の強い遺志で相模湾に散骨してほしいとの願いから、遺族と共に行ったセレモニー（三点鐘）が昨日のこのように蘇ってきた。40台後半で発症した時期は、仕事はともかくヨット仲間とは距離を置くようになった。私には彼に対する最も相応しい慰めの言葉が見つからなかった。またどう接したらよいかとも悩んでいた。

しかしある時期を境にして、彼には我々と過ごす時間が以前のように戻り、レースや長期のクルージングにも意欲的に参加するようになった。彼がクルーに対して以前にも増して明るく積極的に行動していたのが強く印象に残っている。慰めの言葉が不要になった代わりに、彼のコンディションに合わせた日程を作り、それに合わせるようになった。その中で記憶に残っていることは、三崎と伊東の両市が共同主催し、往路、復路と2日間に亘り競う競技内容で、伝統のあるヨットレースに2年続けて優勝したことだ。このレースには、年によって違うが、毎回40艇から60艇が参加している。現在の艇は10年前に購入した2代目になる。既に立派な中古艇であるが、購入したその年に7位に入賞している。そしてこれが最高位の記録だった。当初はビールを飲み談笑しながらイベントに参加することが

目的だったが、レースに勝利する事へと変わっていった。セールを新調し、最小限の装備以外は全て外して軽量化してレースに臨んだ。風と潮の流れを逐一チェックしながらレイラインを決め、セールの微操作を行い、交差してくる艇に対しては優先権を主張しコースを譲ることなくゴールを目指した。クルー全員がこれまでになく真剣だった。限られた目標と時間の中で……。終焉は必然である。万人に訪れるこの終焉に向かう時間のなかで、「集中できる何か」を見つけだして終えることが出来ればこれは最も幸せなことではないかと思う。

島々を眺めながら回想している躯体はすっかり冷えきっていた。部屋に戻り熱いお茶を家内に入れてもらった。ペランダとこの部屋の温度差はかなりのものだった。部屋の中は十分に暖かく日差しも12月末とはいえまさに小春日和である。柔らかな光が部屋の奥まで差し込んでいた。都会には無い癒（たお）やかな時が流れているこの部屋で、一息入れた後に休んでいた拙画の筆を執った。



一粒会（いちりゅうかい）について（抜粋）

横浜教区・一粒会 常任本部委員会

かつて貧しい信徒たちが、祈りと一粒の米を持ち寄り、司祭の召命を願ったことから始まったといわれる一粒会の運動は、いま日本のいくつかの教区で着実に実を結んでいます。

横浜教区では、1942年に信徒が一日一銭の献金を捧げたのが始まりで、戦中、戦後の混乱期に一時停滞というやむを得ぬ時を過ごしましたが、1956年、当時の教区長・荒井司教様が「邦人司祭の養成」についての教書のなかで、「立派な邦人司祭が輩出することを望むのは、幾百万の魂の切なる望みであり、正当な要求ではないか」と言われ、召命には志願者本人の強い意思と、それを支える養成が大切であると諭されました。横浜教区一粒会は、練成会をはじめとする召命促進および神学生の養成をすすめる教区の活動を、祈りと経済的援助のための献金をとおして、信徒の自主的活動として発展してきました。

横浜教区一粒会は、はじめ、その目的を「横浜教区関係の邦人司祭の養成に寄与する」としていましたが、その後、教区状況の変化と司祭の高齢化など時代の要請に合わせ、現在では、「横浜教区に關係する司祭の召命と成聖に寄与する」としています。

一粒会会員は、祈りと献金をとおして、司祭の召命と成聖を心から願っております。教区内8000人といわれる会員から頂いた貴重な献金は、事務局内の広報や会議費など一部の運営のために必要な費用を除き、そのまますべて横浜教区に納入しています。教区全体の運営のなかで、横浜教区の神学生の養成を目的とし、大神学院維持のための分担金や研修設備、費用などのほか、高齢司祭の援助などの一助として活用されています。

司祭の高齢化と召命の減少が憂慮される現在、私たち一人ひとりが生き方を見直し、信仰を生きるためどれほど司祭が必要とされているかを思い起こし、司祭の召命を心から願い、献金による支えとともに会員一同心を合わせて共に祈り続けましょう。

どうぞ一粒会のこの趣旨にご賛同いただき、より多くの方々のご協力をお願いする次第です。（2005年5月）



平成17年度一粒会（第五地区）報告

一粒会委員 竹内広治 宮崎ヒトミ

「司祭への召命は神の永遠の選びによる。各自の能力、才能、学歴、家柄、社会的な業績などは、選びの根拠ではない」（神学院養成指針より）

*会議および行事

- (1) 第五地区一粒会委員会(04.11.17 大船教会)
 - ・一粒会第五地区指導司祭・久我師講話
 - 「横浜教区は司祭、信徒とも活発な教区であると認識し、元気をいただいています。この間、東京カトリック神学院養成方針を拝読し、これは神学生だけでなく、信徒の養成にも活用できると思いました。」
 - ・一粒会本部委員会(04.11.6 司教館) 詳細は05.6発行「一粒会だより」参照
 - ・第五地区年度会計報告
 - 【収入】繰越金・補助金 26,430円 【支出】通信費・印刷費 6,030円【残金】20,400円
 - ・本年度の計画：① 祈りのリレーの継続。(5月原宿教会をスタート、中和田教会は7月担当)② 第五地区版「一粒会だより」継続発行。(特集を組むため、拡大編集会議開催・2/12 大船教会)
- (2) 久我師提案の神学院養成指針および補遺をテキストとして勉強会を開く。
 - 1回目：藤沢教会(5/29)出席20名 2回目：大船教会(10/23)出席12名
- (3) 教区(小5～中3・男子信徒対象)夏季召命錬成会、聖心会山の家で開催。(8/4～7)
 - 中和田教会から石井拓真さんと石井大河くんが参加。
- (4) 第38回横浜教区一粒会大会開催。(9.19 カリタス女子短期大学にて)

テーマ:「主と共に働く我らは、主と共にその実りを味わう」
第五地区からは、司祭4名、信徒40名、若者5名、中和田教会からは8名参加。

- (5) 第五地区版「一粒会だより」10月発行。特集「海外への宣教派遣」
- (6) 一粒会本部委員会報告(11.5)
 - ・司教様から「シノドス」についてのお話。(詳細は後日)
 - ・神学校の合同について・・・現在、教区司祭の養成の場として「東京カトリック神学院」と「福岡サン・スルピス神学院」の2校があるが、この二つの養成機関を一つにするため、設立準備に入る。正式には、「日本カトリック神学院東京キャンパス・福岡キャンパス」の名称となる。
 - ・教区神学生の動向・・・現在6名在学。その内2名はベトナム教区出身。
 - ・教区の叙階慶祝対象司祭・・・ダイヤモンド祝1名、金祝2名、銀祝2名、他に喜寿祝い1名
 - ・教区一粒会献金状況(11/30現在)・・・残額36,902,845円
 - ・来年度の一粒会大会は、9月18日(敬老の日)予定。担当：長野北信地区。
- (7) 中和田教会一粒会現況
 - ・役員交代・・・竹内広治(留任)、内藤和子(新任)、宮崎ヒトミ(退任)
 - ・H17年度一粒会献金総額・・・330,700円
 - ・H17年度会員数:71名(新規加入0,死亡2名,転出2名,退会1名)
 - ・H18年度会員数:66名